

小学校 国語

事例 1

1 学年 ともだちのこと、しらせよう

本時のねらい：質問して分かったことを基に、まとめや順番を意識しながら、友達のことを知らせる文章を書くことができる。

自己の学習進度に応じた学習方法・教材の選択

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・「書くこと」における自己の学習状況を理解し、ワークシート等の教材を自ら選択して課題に向かおうとする姿
- ・1人1台端末に保存してあるインタビュー動画を何度も見直しなが、まとめや順番に着目して紹介文を書き直す姿

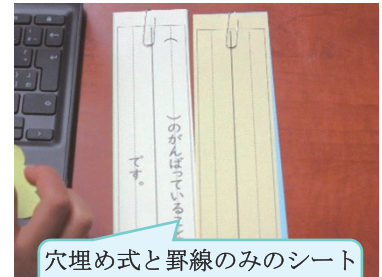
学習過程の工夫

ICTの活用

本実践では、前時に録画したインタビュー動画を1人1台端末で視聴しながら、友達の紹介文を書くという、「個別学習」の場を設定した。

その際、形式等の違うシートを用意することで、児童が自身の「書くこと」における学習状況を考えて、自己選択することができるようにした。まとめごとの文章を書きながら、状況に応じてシートを変更するなど、課題解決に向けて自らシートを使用などを選択する姿が見られると同時に、まとめごとの順番を入れ替えるなど、文章の構成を工夫する姿が見られた。

また、1人1台端末で、友達全員のインタビュー動画を視聴することができるようにしたことで、早く書き終わった児童が、別の友達の紹介文づくりに意欲的に取り組む姿も見られるなど、個々の学習進度に応じた学びの保証にもつながった。



穴埋め式と罫線のみシートを個々で選択。



動画を何度も再生しながら、文章を書き直していく。



早く終わった児童は、別の友達の紹介文に挑戦。

事例 2

1 学年 じどう車くらべ・じどう車ずかんをつくろう

本時のねらい：はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を関連させて捉えることができる。

本実践では、児童がはしご車の「つくり」を探す際に、3つの学習環境を用意することで、個々に学習方法（動画・写真・本）を選択できるようにした。友達と一緒に動画を見ながら探す姿、一人で黙々と本から探す姿など、教室の内外を自由に動きながら、「つくり」を探すために、最適な方法を選択する姿が見られた。

学習環境の工夫



事例 1

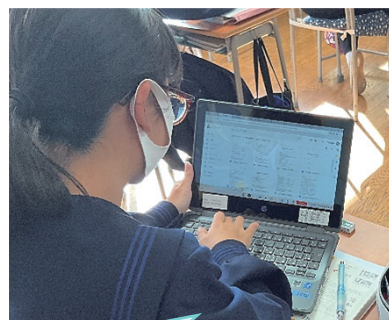
2 学年 「平家物語」のなぜ？を調べよう

本時のねらい：目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。

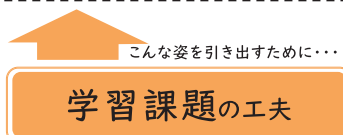
自己の学習進度に応じて他者と対話し、解釈を深める学習

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・自分の疑問、気付きを基に、他者の疑問、気付きを参考にしながら、自ら解決したい課題を設定しようとする姿
- ・自分で設定した課題を解決するために、1人1台端末で他者の考えを閲覧し、自分の解釈を再構成しようとする姿



ICTを活用した考えの共有
・ファイル共有による自由閲覧やクラウド上に保存したファイルのリンク共有による自由閲覧等の方法が考えられる。



本実践では、1人1台端末を活用し、自分の学習進度に応じて、他者の考えを自由に閲覧できるようにし、他者の考えを参考にしたり、質問したりできる、自分で学習を調整する時間を設定した。

平家方の男を射た場面に、どのような意味があるのだろうかという課題を設定した生徒は、与一について課題を設定した生徒の考え（責任感の強さ、命令に忠実）を参考にしながら、この場面を「非情」な源氏と「雅」な平家の関係を印象付けていると意味付けていた。

このように、単元を構想する上で、生徒自らが自分の学習状況を把握し、自分で学習方法等を選択できる時間の設定が有効だったと考えられる。



生徒が個人・グループなど、学習形態を必要に応じて選択できる。

事例 2

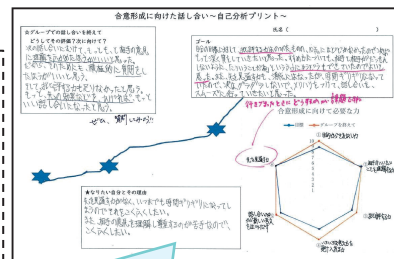
3 学年 山梨市を背負って立つ議論をしよう

学習過程の工夫

本時のねらい：進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。

本実践では、個に応じた目標を設定させるため、グループでの話し合い活動の様子を、1人1台端末を用い撮影し可視化した。

生徒が、動画を振り返りながら、合意形成に向けた話し合いでの自分の課題を明確にし、全体での話し合いに臨むことができるように学習過程を工夫した。生徒の振り返りの記述から、個別の目標を明確に設定させることで、生徒が目標と実際の活動を振り返り、学習調整が行われていた様子を見取ることができた。



生徒のワークシート例：動画を振り返らせたり、自分の現状をグラフ化させたりして、個別の目標を明確に設定させた。